

氏名	東原 亜希子	部署	看護学科	職名	助教
研究分野	助産学・母性看護学・補完代替医学				
学位	博士（看護学）				
学歴	2017年聖路加国際大学大学院看護学研究科博士後期課程				
経歴	2002～2007年秋草学園短期大学非常勤講師、17年埼玉県立大学保健医療福祉学部助教、20年埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授				
所属学会（役職）	日本助産学会、日本母性衛生学会、日本看護科学学会、日本ヒューマンケア・心理学会、日本母性看護学会、埼玉県立保健医療福祉科学学会				

【2019年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	該当なし					
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	該当なし					
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	無煙棒灸実施前後の皮膚温と血流量の経時的変化—妊婦と非妊婦の比較—	共同	第34回日本助産学会、新潟市（Web開催）		○東原亜希子、堀内成子、千葉真希子	2020.3
(4) その他						
	名称	単・共	発表場所等		発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称	研究名		研究代表者・研究分担者の別	研究期間	
1	文部科学省・日本学術振興会学術研究助成基金助成金（若手研究）	骨盤位の妊婦が実施する無煙棒灸の頭位変換の効果：ランダム化比較試験		研究代表者	2020.4～2023.3	
3. 教育業績						
(1) 講義						
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	遺伝と看護	○	8	科目責任者として、倫理的側面からケアを考え、看護職者として必要な倫理的知識、態度、行動について、PBLチュートリアルを通して考えさせた。チューターとしての役割に徹した。		
2	周産期のケア		3	出産準備教育と妊娠期の運動の目的や方法が理解できることを学習目標とし、妊娠期の健康教育やバースプランの重要性を認識できるよう努めた。実際のマタニティピクスを体験してもらい助産師活動の多様性を実感してもらった。		
(2) 演習						
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	周産期のケア		8	3年次助産系履修学生を対象に、胎児心拍数陣痛図モニタリング管理の演習と助産師外来演習（妊娠期の健康診査技術及び保健相談）を行った。学生の自己課題が明確になり、総合実習や助産実習で活かせるよう、イメージしやすいように工夫した。また、集団指導実践に伴い、指導案作成から助言をし、グループ内での自分の役割や能力についても客観的に考えられるようグループダイナミクスの視点に考慮し工夫した。		
2	分娩期のケア		2	分娩第1期のケアの演習を行った。シミュレーション教育を導入し、学生がより能動的に学べるよう工夫した。		
3	母性看護学Ⅲ		4	2年次生を対象に、新生児の抱き方、進行性変化（乳房乳頭の観察、授乳への援助法）について、ロールプレイを用いた演習をした。資料作成においても実際の写真を掲載するといった実際のイメージがしやすいように工夫した。		

(3) 実習						
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	母性看護学実習		2019.5～7	3年次生を対象に、6週間の産科病棟実習指導を行った。受け持ち事例を通し対象を理解し、学生一人一人が看護過程を展開し評価できるよう導いた。		
2	総合実習		2019.7	4年次助産系履修学生4名を対象に、産科外来・病棟実習指導を行った。妊娠期から出産、産後と継続ケアの重要性と退院後を見据えたケアが行えるよう支援した。		
3	助産学実習Ⅱ		2019.8～10	4年次助産系履修学生3名を対象に、8週間の分娩助実習指導を行った。個別性を重視した助産診断、家族を含めたケアが実施できるよう指導した結果全員が目標を達成することができた。		
4	IPW実習		2019.10	新規施設での実習であったが、施設担当ファシリテーターと密に連絡を取り、個々の学生が自主的に参加できるよう、チーム形成の過程を見守りながら教員ファシリテーターとしてサポートした。		
対象		期間	主指導・副指導の別及び指導人数			
1	卒業論文	2019.4～2020.1	主指導	2名	副指導	名
2			主指導（指導教員）	名	副指導（指導補助教員）	名
(5) その他						
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）			
1	新任教員対象 科学研究費助成事業「研究活動スタート支援」公募説明会	2018.4～	科研研究活動スタート支援公募説明会講師として、採択される計画書の書き方、ポイントを資料を基に丁寧に説明した。			
4. 社会貢献活動						
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師						
	講演会、研修会、公開講座等の名称		主催	講演、研修、公開講座等のテーマ		開催年月
1	地域貢献講座（専門職講座）		地域産学連携センター	地域貢献講座（専門職講座）産科看護職のための勉強会「精神疾患のある妊産婦への支援」担当		2019.11
2	国際協力事業		財団法人埼玉県国際交流協会	地球市民育成事業日本人講師。小・中・高校の教育現場や地域社会に対し国際理解・多文化共生への認識を増進する事業の企画・調整。ワークショップや海外での活動体験を紹介（要請に応じ年間に3ヶ所程講演活動中）		2011.4～
3	助産学研究		厚生労働大臣指定学校法人晃陽学園 晃陽看護栄養専門学校 助産学科	非常勤講師として「助産学研究」の講義8時間を担当。主に助産学研究の目的と意義、研究方法を教授した		2019.4
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等						
	国、自治体、学術団体等の名称			委員等の名称		任期
1	該当なし					
(3) ジャーナリズムでの発言						
	メディア等の名称		内容			年月
1	該当なし					
(4) その他						
	項目	相手方等		内容		期間
1	地域貢献活動	学校法人聖路加国際大学		妊婦・母子の運動指導（マタニティビクス・アフタービクス講師）。運動クラスの企画運営。学校法人聖路加国際大学聖路加助産院マタニティケアホームにて隔週土曜日担当		2017.4～
5. 学内運営						
	項目		内容			期間
1	全学的委員会及びセンター業務等		研究推進委員会 共同実験管理部会			2019.4～
2	学科等における委員会等		看護学科実習計画調整会			2018.4～2020.3
3	大学広報活動		高校訪問への参加（2回）			2019.4～2020.3
4	国際交流活動		留学生夏プログラム（香港理工大学、チューリッヒアブライトサイエンス大学）看護学科講義演習担当			2019.4～2020.3
5	学生支援		卒業生・在校生の支援として助産系履修学生同窓会担当			2018.4～
6	大学広報活動		オープンキャンパス 母性看護学・助産学実習室担当			2019.8

7. 特許の取得		
	特許名	特許番号 登録年月
1	該当なし	
8. 特記事項		